

令和元年度 文書館 月替展示について

「ゲームとつながる福井の歴史 一刀剣と御城— シーズン2」

1 展示概要

2017年（平成29）度で開催した月替展示「ゲームとつながる福井の歴史 ～刀剣と城～」。今回の展示は約2年ぶりとなる続編です。

今回も「刀剣」と「城」が主役のネットゲーム「御城プロジェクト:RE ～CASTLE DEFENSE～」と「刀剣乱舞 - ONLINE-」を題材とし、ゲームに登場する「刀剣」と「城」と福井の歴史との関わりについて紹介します。

2 期間 2019年（令和元）12月20日（金）～2020年（令和2）2月19日（水） 文書館閲覧室

3 展示資料候補

(1) 展示ケース内

	資料	資料に関係する刀剣と城
御城プロジェクト:RE～CASTLE DEFENSE～	A0177-00095 「越前坂井郡丸岡霞ヶ城（絵はがき）」	丸岡城…柴田勝家の甥柴田勝豊が築いた城。現存十二天守の一つ。近年は国宝化を目指している。
	C0005-00527 「新刻太平記 目録并釘 十七之八」	金ヶ崎城…新田義貞や織田信長、豊臣秀吉らにゆかりのある城。金ヶ崎宮には義貞と城にこもった恒良・尊良両親王が祀られている。
	A0143-01799 「越前世譜 秀康様御代 (1)」	福井城…結城秀康によって築かれた越前松平家の居城。特に、秀康は石田（切込）正宗や稲葉郷（江）などの名物を所持していたことで知られる。
	X0142-00328 「北陸七国志 三（北国全太平記）」	一乗谷城…朝倉孝景（英林）によって築かれた城。一乗谷朝倉氏遺跡は国の特別史跡・特別名勝に指定されている。
	X0142-00004 「(柴田勝家安堵状)」	北ノ庄城…柴田勝家によって築かれた城。結城秀康はこの城の跡地に福井城を築いた。
刀剣乱舞-ONLINE-	A0143-02237 「結城御代記」	御手杵…島田五条義助作の槍で天下三名槍の一つ。結城晴朝が所持し、晴朝の養子となった結城秀康に受け継がれた。その後は松平大和守家に伝来。
	C0037-00636 「保元平治闘図会（巻之六～八）」	小烏丸…平氏に伝来した刀剣。城福寺（越前市）は平頼盛の子平保盛によって創建されており、全国でも珍しい平氏の菩提寺となっている。
	X0025-00009 「木村常陸介安堵状（蝋燭・蝋商売諸事跡目ニ付）」	平野藤四郎…粟田口吉光作の刀剣。元の持ち主であった平野道雪から、木村常陸介が買い取り、豊臣秀吉に献上している。
	N0055-00905 「若狭守護代記（1-6、貞享4年の記事まで）」	にっかり青江…青江派の刀剣。柴田勝家が入手し、子の勝久に与えた。賤ヶ岳の戦いの後、丹羽長秀が入手し、子の長重に与えた。
	A0143-00708 「和田八幡宮修繕寄付申出書（付、安波賀春日社吉田運吉小狐丸ニ関スル書）」	小狐丸…三条小鍛冶宗近作の刀剣。撰関家の藤原氏に伝来したが、いつの頃か所在不明となった。江戸時代、越前に小狐丸が所在するという噂を聞いた幕府が福井藩に調査を命じており、その記録が残っている。
A0143-01832 「越前世譜 吉邦様御代 八 (34)」		

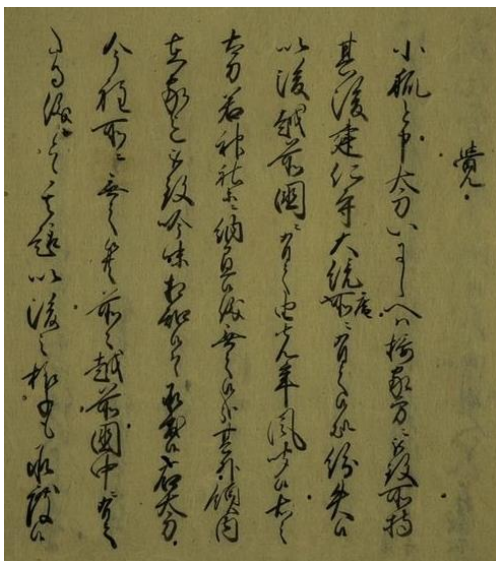
(2) 壁面ガラスケース：パネル展示「城娘と福井の御城」

「御城プロジェクト:RE～ CASTLE DEFENSE～」に登場するキャラクターである「城娘」とそのモデルになった福井の城をパネル化して展示。

(3) 図書館閲覧室入口

	資料	資料の概要
刀剣関係資料 これくしよん	C0064-01261 「装剣奇賞 (序例、総論、雑述)」 C0064-01262 「装剣奇賞 参 (諸工名譜其一)」	刀装具や根付といった細密工芸に関する初の本格的な手引書。
	C0064-01263 「続新刀銘尽 卷之八 (南海道六箇国、国不知)」 C0064-01264 「続新刀銘尽 卷之五-卷之六 (諸国新刀目利之書 山陽道八箇国、北陸道七箇国)」	江戸時代の刀剣書「新刀銘尽」の続編。「新刀」という名称の由来となった資料の一つとされる。
	N0055-00897 「万宝鄙事記 卷三・四 (刀脇指、収穫、花香火、紙細工、染物)」	江戸時代の家庭用百科事典。家庭での刀剣の手入れ方法についての記述がある。

- 4 広報 広報誌「県政広報ふくい」掲載、プレスリリースシステムへの登録
イベント情報（おでかけふくい）への登録、全庁システム掲示板への情報掲示
文書館ホームページ・文書館ふくい掲載、館内・フレンドリーバスでのポスター掲示
- 5 その他 展示のガイドペーパーを配布
- 6 提携
「御城プロジェクト:RE ～CASTLE DEFENSE～」に関し、運営元の合同会社 DMM.com と提携
- 7 資料の例



覚

小狐という太刀は、昔は撰関家が所持しており、その後建仁寺の大統庵にあったところ、紛失した。以後、越前国にこの太刀があると、数年前に世間の噂で伝え聞いた。
この太刀が神社などに納められているのか、あるいは納められていないか、その他の領内の家々まで調査し、何か分かれば、報告して欲しい。
今回、領内にこの太刀がなかったとしても、以前にこの太刀が越前国にあったという由緒があれば、その詳細や以後の様子も報告してほしい。

「越前世譜 吉邦様御代八 (34)」
1720年 (享保5) ～1721年 (享保6)
A0143-01832 松平文庫 (当館保管)

現代語訳